

目標達成計画

作成日: 平成31年 2月 18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		夜間の確実なる巡回の確認、「室温と入居者の眠っている様子」の書き入れ書類の偽証書き入れ防止。	資格者が夜勤者巡回を写メールで確かめてこの目で確かめる	巡回が確実に実施されているのか?の確認を江口孝則総括を含め、資格者の携帯電話に写メールで送信行、また同時に居室の室温も写メールで確認し、確実な対応を行う。資格者は深夜でも写メールでの、入居者の実態を確認作業している。	12ヶ月
2		スタッフは、身体拘束と虐待についての内容とその対応の悩みについて	スタッフは、身体拘束と虐待についての内容とその対応と、法的の例	スタッフは、身体拘束と虐待についての内容とその対応と、法的の例などを入れ、弁護士を入れて検討会を開催し知り学ぶ社内研修の定期開催	12ヶ月
3		入居者への投薬について詳しく知ろう。	スタッフが、常に投薬の内容と効果を知る。	スタッフが入居者の投薬を個別に作成し用意した、薬の説明内容とその効果を確認する。	12ヶ月
4		月の訓練として、火災避難訓練はしているが、地震、水害など、自然災害などの、避難訓練が出来るのか?火災は消防署隊員が助けに来るが、自然災害は自分たちで、助ける者が居ない事を想定しよう。	どこに避難するのか?の場所の確認と、持ちだし書類衣服の確認と、準備が出来る様になる。緊急避難への連絡。と、関係者への報告。	災害時の持ちだし品のリストを作成いつでも準備出来る様に、誰もが目に付く場所に掲示する。災害の際に避難場所、誘導方法などを、定期的にスタッフと確認する。	12ヶ月
5		出来る事なら、時々室内から、外に出よう!	入居者には、身体状況に格差があり、室内ばかりでのレクリエーションなどが企画されている。	入居者には認知症であっても、「まだら」の人は日常は、普通健常者の方よりも、はっきりされている。ホームでは病院のクスリもらい、食材の買い出しで、スタッフが外に出る機会がある。その際に同行して気分転換を図る。	12ヶ月